

<ホームページおよび院内での公示資料>

精神神経科の外来診療の患者様へ

「精神科外来における周産期メンタルヘルスケアの実態調査および症例研究」  
への協力をお願い

周産期といわれる妊娠期から出産後は、ホルモンバランスの変化や、妊娠・子育てにまつわる不安や様々なストレスが生じやすい時期でもあります。不安や精神的不調を体験しているなかに、うつ病など専門的にかかわり・治療を必要としている場合も少なくないことがわかっています。

当院精神神経科でも、地域の病院や当院産婦人科との協力のもと、周産期メンタルヘルスケアを必要とする患者様への治療を行っていますが、それらの疾患に固有の治療方針策定、予後予測は未だに不十分です。そこでこの研究では、当院精神神経科にかかられた妊娠期や産後の患者様へのメンタルヘルスの治療成績や各種併存障害との関連、リスク因子の同定・評価、あるいは治療に用いる薬剤の安全性や有効性などを評価し、学術的構築を行うことを目的としています。このような問題を解決するためには、前向き研究（研究目的を決定した後、患者様をいくつかの群に振り分けさせていただき、その経過を追わせていただく研究）が重要ですが、その基盤として後ろ向き研究（今までの臨床データを解析して、治療成績や患者様の自然経過を見させていただき研究）が非常に重要です。それゆえ、当科では、東大病院精神神経科を受診された妊産婦患者様の 2007 年 1 月 1 日～2018 年 3 月 31 日のデータを解析いたします。対象となるデータは、診療録（問診や診察所見など）、投薬内容、疾患名、処置内容、検査結果（血液検査、尿検査、便検査など）、生理検査（心電図、光トポグラフィーなど）、放射線検査（一般 X 線検査や CT 検査、MRI 検査、核医学検査など）、各種臨床評価指標、神経心理検査や人格検査など、日常診療において行われているデータです。東京大学で他の研究に参加されている方は、研究として得られたデータも対象となります。また、個別の症例として報告させていただきこともあります。

この研究は、過去の診療記録を用いて行われますので、該当する方の現在・未来の診療内容には全く影響を与えませんし、不利益を受けることもありません。解析にあたっては、個人情報匿名化させていただき、その保護には十分配慮いたします。当然ながら、学会、論文、書籍などでの結果発表に際しては、個人の特長が可能な情報はすべて削除されます。この研究に関して不明な点がある場合、あるいはデータの利用に同意されない場合には、以下にご連絡頂きたいと思っております。なお、本研究は、当院の倫理委員会の承認を得ております。また、この研究への参加をお断りになった場合にも、将来にわたって当科における診療・治療において不利益をこうむることはありませんので、ご安心下さい。

2017 年 1 月

<連絡先>

東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学医学部附属病院・精神神経科外来

看護師・永井真理子

FAX : 03-5800-6894